

TSURUMINE

HIGH SCHOOL

50th ANNIVERSARY



神奈川県立 鶴嶺高等学校

創立 50 周年 記念誌



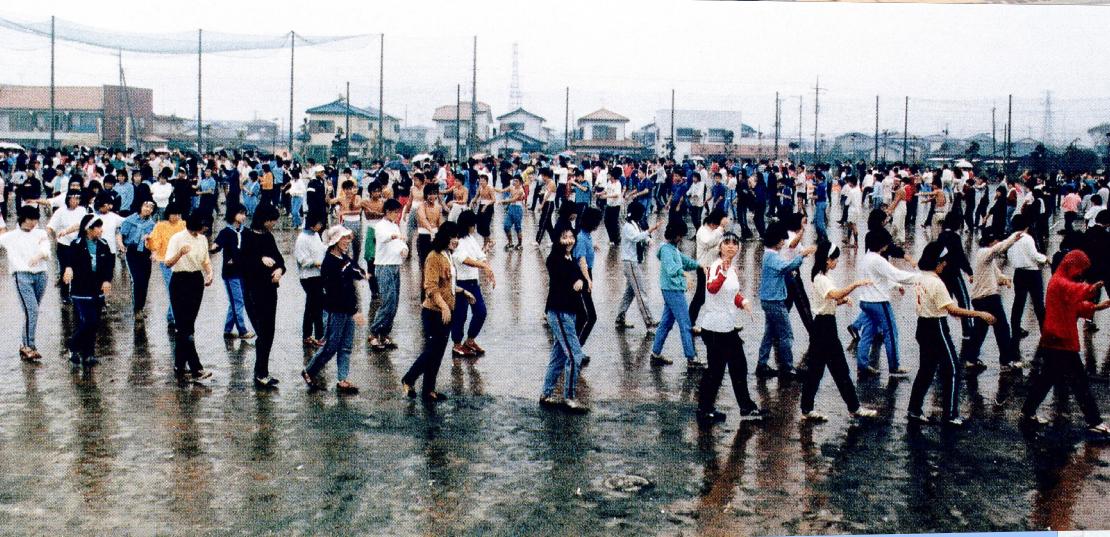


創立 50 周年 記念誌



目 次

校章の由来・校歌	P.3
第1章 50周年によせて	P.4
祝辞／挨拶	
生徒会役員一覧	
卒業記念品一覧	
学校沿革（10年間の歩み）	
第2章 10年の記録	P.12
体育祭	
鶴嶺祭	
第3章 グローバル教育について	P.18
海外研修旅行記（ドイツ）	
海外研修旅行記（ニュージーランド）	
海外研修旅行記（イギリス）	
本校のグローバル教育を支えるもの	P.22
第4章 修学旅行	P.24
旅の様子	
修学旅行先一覧	
第5章 部活動紹介	P.26
運動部	
文化部・同好会	
実績一覧	
第6章 PTA	P.34
本部役員と活動記録	
広報誌（2014年～2024年）	
第7章 同窓会	P.38
同窓生より寄稿とつるみね会役員一覧	
第8章 職員の記録	P.40
創立以来の在職 職員一覧	
第9章 生徒の記録	P.48
在籍数と居住地	
大学合格者数	
第10章 さいごに	





❖ 校章の由来



楕円の中に3羽の鶴が無限の可能性を求めて碧空高く飛翔する姿より、カタカナの「ツ」の字を表しています。この3羽の鶴は、生徒・教職員・保護者三位一体の姿と、知・徳・体を追求したものです。

❖ 校歌 作詞：森岡 正作 作曲：村井 恒雄

- | | | |
|---|---|---|
| 一 | 國のもなかに
富士の靈氣を
自立の誓い
若い命の
わが鶴嶺に | あま
天そそる
身にあびて
固めつつ
健やかさ
栄えあれ |
| 二 | 潮風かおる
相模の海は
知性の光
若い誇りの
わが鶴嶺に | 白浜の
波静か
磨きつつ
清らかさ
栄えあれ |
| 三 | へきくう
碧空鶴の
伸びゆく我等の
清新の風
若い集いの
わが鶴嶺に | 舞い姿
象徴なり
築きつつ
和やかさ
栄えあれ |

開校当時の国語科担当の森岡先生が、作詞してくださいました。
なお、校歌板は体育館に設置されています。



2025年5月16日に本校正門付近で撮影。
左から、逸見教頭、高橋校長、森岡先生、亀岡副校長

森岡正作先生は、鶴嶺高校の創立当初に本校で国語を教えており、当時の校長であった沖津昇治先生の依頼を受けて、校歌の作詞を手掛けました。森岡先生が作詞された当時、先生はまだ20代の若さでした。





挨拶

Always Fantastic Tsurumine

第19代校長 高橋 正広

神奈川県立鶴嶺高等学校が創立された1975年から、社会は大きな変革を遂げ、私たちの暮らしも様変わりしてきました。その間も、学校は常に生徒の活気で溢れ、若者たちは学びに励み、仲間との絆を深め、それぞれの誓いを胸に社会に羽ばたいていきました。その姿を、富士は変わらぬ美しさで見つめ、風はその物語をはこびました。それはまさに鶴嶺の校歌が描く光景です。創立50周年を祝福するに当たり、その詩を英語でお送りします。

Cranes over the Ridges

On the treasured land, where hearts lift high
With dreams and inspiration, we reach for the sky

豊かな大地 心は高く、夢は空にとどく

We aspire to stand on our own
With spirits full of youth and strength, we've grown
自立を誓う私たち 日々成長し、若さと強さにあふれる

The ocean spreads beyond white sandy shore
Our hearts are unbound, and our spirits soar
白浜の向こうに広がる海 解き放たれ、空に舞い上がる心

Explore the unknown sea of insight

Let our pride be a guiding light

知識の果てなき海を探る 私たちの誇りを頼りに

In the blue sky, cranes fly with grace
As if they traveled to infinite space

碧空に鶴が舞う その優雅なる瞬間、果てなき宇宙へと
旅するかのように

Their wings whisper tales untold
In their flight, our stories unfold

翼がささやくまだ知らぬ物語 その飛翔の中で紡ぎ出される章

We are Cranes over the Ridges, flying into the light
Believing glories will be there, shining bright

私たちは嶺を超え光に舞う鶴 そこに輝く栄誉があると信じて

By A'Go Forest

鶴嶺の創立50周年 — これまで私たちが築いてきた長い道のりを誇りに、この節目が未来への架け橋となるように誓いを新たにしたいと思います。そして、さらに50年後にも鶴嶺の伝統と精神が受け継がれ、未来の世代にとっても素晴らしい学び舎であり続けることを願っています。

It's always Fantastic Tsurumine. See you in another 50 years.





祝辞

創立 50 周年にあたって “昔ばなし”

同窓会長 古川 一成

我が鶴嶺高校がこのたび、創立 50 周年を迎えました。喜ばしいかぎりです。これもひとえに、歴代教職員の方々の熱意溢れるご指導と、保護者・同窓生はもちろん地域の方々の優しく温かい支援があったからこそ。衷心より御礼申し上げます。そして今、勉学に部活にと励む現役生徒諸君に大いなるエールを送りたいと存じます。

《開校当時》開校当時、沖津昇治初代校長先生の「何でも私達の手で、内部の力で作り上げてゆこう」を合言葉にしていたと伺ったことがあります。当初藤沢工業高等学校時代に間借りしていましたが 1975 年 4 月、円蔵の現校舎に移りました。校舎はピカピカ。しかし周辺施設は造成中でした。体育の授業はバケツ片手に 1 時間、グラウンドの石拾いでした。硬式野球部は工事関係者から単管・クランプを譲り受け、バッティングゲージを手作りしました。ソフトテニス部も中庭に、2 回目のテニスコートを手作りしました。同年 9 月 26 日には第一回体育祭開催。会場は、相模川河畔スポーツ公園です。この施設は、堤防整備事業のため 2019 年 3 月 31 日利用停止になっています。この体育祭で初めて、浴衣踊りが取り入れられました。県内でも有名な鶴嶺高校体育祭の浴衣踊り、51 年で延べ 57960 名が参加したことになります。

《校歌》我が鶴嶺の自慢は、校歌も手作りであることです。作曲が音楽科講師の村井恒雄先生、作詞が国語科で硬式野球部監督の森岡(現:小野)正作先生です。発案はもちろん沖津校長。「高名な作曲家・作詞家に依頼するお金はどこにもない」というのが理由。「校風を盛り込んで」が条件です。手作り感満載です。森岡先生の 76 年冬の帰省は、ひたすら作詞に苦しむことになります。ご実家は秋田です。校歌には、我が鶴嶺の校章のもつ意味がそのまま具現されます。「碧空鶴の舞い姿伸びゆく我等の象徴なり」(三番)。教職員・生徒・保護者の三位一体を意味します。無限の可能性を秘め碧空高く飛翔し、生成発展止むことない我が

鶴嶺の姿が歌われます。また、「知性の光磨きつつ」、「若い集いの和やかさ」、「若い命の健やかさ」(それぞれ二番・三番・一番)は「知」・「徳」・「体」。調和のとれた円満な人間の育成を目指すことが表現されます。齊唱の際、一番は男性的に、二番は女性的にと教えて頂いたこと覚えております。不適切な表現ですが、記憶の歴史的価値を鑑み書き加えました。ご容赦下さいませ。情景の配材は素晴らしい。校舎から見える莊厳な富士、相模湾の潮騒も聞こえるような絶好の立地、明るく溌剌とした生徒。感激なしには歌えません。村井先生は、「音符は記号に過ぎない。校歌は、生徒が心をこめて歌って初めて生命が吹き込まれるのだ」と仰っていました。また森岡先生も、「学校も校歌も一年一年磨かれて輝いていくものだ」と。

《同窓会》鶴嶺高校同窓会には、18600 余名の会員がいらっしゃいます。第一期生は 66 歳となりました。会員の中にはご子息だけでなく、お孫さんまで入学された方がいらっしゃると伺っております。喜ばしいかぎりです。さてこの度、鶴嶺高校同窓会では 50 周年記念事業として、ホームページを立上げることとなりました。総会(隔年)も、全体懇親会(夏季オリンピックイヤー)もコロナ禍により出来ませんでした。再生元年として、まず会員の皆様に、有意義な情報発信をして参る所存です。

《おわりに》在校生諸君、高校生活は決して長くありません。悔いなく楽しんで下さい。私は最後の夏、逆転サヨナラ負けで校歌を歌えなかったことが心残りでした。しかし良い後輩に恵まれ、翌年にはスタンドで大合唱することが出来ました。鶴嶺高校も 50 年を経て、3 羽の鶴がたくさんの方々を巻き込んで、編隊飛行が出来るようになったと確信しております。75 周年・100 周年と、なお一層の発展を祈念致します。いざ歌わん「我が鶴嶺に栄あれ」。最後になりましたが、50 周年記念事業にご協力いただいた関係各位に厚く御礼申し上げます



祝辞

PTAより心からの祝辞を

PTA会長 柳 伸広

鶴嶺高校の輝かしい50周年、誠におめでとうございます！この記念すべき年をPTAとしてお祝いできることを、心より光栄に思います。

PTA活動を通して体育祭や鶴嶺祭、交通安全活動など様々な学校行事に微力ながらお手伝いさせていただく中で、生徒のみなさんが協力し、成長していく姿を間近で見守ることができました。時には笑いあり、時にはちょっぴり涙あり…そんな一つ一つの思い出が、私たちPTAにとってもかけがえのない宝物です。

"Education is not the filling of a pail, but the lighting of a fire." (教育とは、器を満たすことではなく、火を灯すことである。) この言葉のように、鶴嶺高校がこれからも生徒たちの心に情熱の火を灯し続け、夢に向かって羽ばたくための素晴らしい学び舎であり続けることを願っています。

未来に向けて、さらに発展し歩んでいくことを楽しみにしています。PTAも引き続き、学校を応援し、すべての人の笑顔のために活動してまいります。

さらなる飛躍を心からお祈り申し上げます！



祝辞

創立50周年記念誌発行に寄せて

つるみね会会長 中村 光良

県立鶴嶺高等学校創立50周年おめでとうございます。つるみね会を代表いたしまして心よりお喜びを申し上げます。

つるみね会は、鶴嶺高校PTAのOB会として会員の親睦と鶴嶺高校教育振興の助成に寄与する事を目的に昭和57年に設立されました。つるみね会で毎年発行されている会報誌「つれんかむい」には、昭和50年開校当時の学校や生徒たちの様子、学校への進入路の緑化工事の様子や森岡先生が校歌を作詞された秘話など数々の歴史が掲載されており大変

貴重な資料として残されています。

特に初代沖津校長の思いを伝える記事も多く、創立当初からの国際理解教育・福祉教育への思いは50年経った今でも校風として引き継がれています。体育祭の浴衣踊りや鶴嶺祭といった伝統を守りながら、ワールドスポーツフェスティバルのような新たな行事にも挑戦したりと、更に生徒達の主体性を育む先進校であり続けて下さい。

鶴嶺高校の益々の発展を心から祈念致します。我が鶴嶺に栄えあれ！





祝辞

紫陽花ロード

第16代校長 川端 麻穂

「想像力を働かせてください。」4年間の在職期間に繰り返し生徒の皆さんに呼びかけてきた言葉です。社会の一員となってからも想像力をフルにいかして、鶴嶺高校で身に付けた知識・思考力、コミュニケーション力をもって、予測不可能と思われるけどもワクワク感の止まらない国際社会へ飛び出し、適切に判断し行動できる人として御活躍ください。

関東大会応援で宇都宮へ、インターハイ応援で岡山へ行ったこと、PTA全国大会（盛岡）で体育祭の浴衣踊りを発表して役員の方々とじゃじゃ麺を食べたこと、体

育館で初めてダブルダッチを飛んだこと、体育祭のオープニングで段ボール箱から飛び出したこと、文化祭の前夜祭で赤ジャージを着て「ごくせん」を演じたこと、などなど多くの印象深い思い出をありがとうございました。

県立鶴嶺高等学校創立50周年おめでとうございます。鶴嶺高校を支えてくださっているすべての方々に心から感謝申し上げます。そして、皆さまの御多幸をお祈りしています。明るく、活力があり、地域を支える茅ヶ崎の地を代表する高校として、100周年に向けて、わが鶴嶺に栄えあれ。



祝辞

世界を見渡す鶴であれ

第17代校長 佐藤 教道

鶴嶺高等学校創立50周年を迎え、心よりお祝い申し上げます。第17代校長として平成31年4月に着任し、3年間在職しました。在職中は、校舎の耐震補強工事に新型コロナウイルス感染症も加わり、文字通り忍耐と創意工夫を要求される歳月となりましたが、素晴らしい生徒に恵まれ、実にやりがいのある毎日を過ごすことができました。

感染症の影響により制約を受けたことは残念なことでしたが、元英語教員たる身には、本校が長年、国や県の数々の英語教育の研究指定を受け続けてきたことや、外国につながる背景をもつ生徒や留学生の

存在、複数国の海外姉妹校との交流など、やりがいを感じる要素満載の学校でした。

校長室に「疾風知勁草」という額が飾られています。これは鶴嶺の昔の卒業生の揮毫になる書で、在職中、課題に出くわすごとにこの『後漢書』王霸伝の引用句を眺めたことを思い出します。鶴嶺生の強さとしなやかさを表現している句でもあると思います。

鶴嶺、半世紀一今後も広い視野と確かな視座を持ちながら変転する世界の中で有為の人材を輩出しつづける学校であり続けるよう祈っています。



祝辞

鶴嶺高校の思い出

第18代校長 濱川 美奈子

鶴嶺高校が創立50周年を迎えたことを心よりお祝い申し上げます。

異動した現在も、授業や学校行事、部活動、海外交流等に一生懸命に取組む生徒たちの明るく元気な姿が鮮明に思い出されます。

私が在籍した令和4年度からの2年間、「ウィズコロナ」から「アフターコロナ」の期間で印象に残っている出来事が2つあります。1つは令和4年度の合唱祭です。音楽の授業ですら合唱を控えていた時期を経て4年ぶりの開催。生徒たちから感じた、級友と心を一つにして歌声を響かせる喜びと合唱祭実行委員や教員への

感謝の拍手に胸がいっぱいになり、今も忘れることができません。

もう1つは令和5年度の鶴嶺祭です。校舎の外壁工事が始まり、生徒のご家族と中学生の限定公開になったのですが、地域住民の方からの「鶴嶺祭をコロナ後の楽しみにしていたのに、今年も参観できずに残念だ」というお言葉に申し訳ない気持ちと鶴嶺高校は地域から愛されているということを実感した出来事でした。

これから鶴嶺高校の益々のご発展と鶴嶺の生徒たちのご活躍を心から祈念するとともに楽しみしております。わが鶴嶺に栄あれ!

50周年によせて
— 祝辞／挨拶

Column

表紙・裏表紙絵作者



49期生

阿久津 濃愛

50周年記念誌
の表紙絵の作品制
作をするという大役を
任せいただき、大

変嬉しく思っています。この絵に描いた鶴は、
純白の美しい翼を持ち、これから天高く舞い
上がるとする鶴嶺高校の生徒をイメージし
ています。また、鶴嶺高校で私たちが培った
様々な経験を繊細かつ複雑、それでいて調
和の取れた模様として表現してみました。鶴
嶺高校から大きな翼で世界に羽ばたいてい
く生徒たちととらえていただけると幸いです。

マスコット作者



49期生

磯崎 璃空

50期生

岡田 幸希



私たちのデザインを50周年記念マスコットキャラクターに採用していただき、とても光栄に感じています。「かわいいマスコットキャラを一緒に作っちゃおう！」と二人で話をしたのがきっかけで制作しましたが、デザインするなら学校全体で愛着を持ってもらえるキャラクターになるように考えました。私たちは購買で販売している“ツルチキ”が好きなので、それをモチーフに発想して、“製造工場から命からがら逃げてきた原材料の鶴（実際にはツルチキの原材料は鶴ではありません）がツル吉”という設定にしました。みなさんツル吉を可愛がっていただければ幸いです。





挨拶

50年の思いを繋ぐ

生徒会長 川上 聰子

本日は、鶴嶺高等学校創立50周年という節目を本校に関わる多くの方々と共に迎える事ができ、大変光栄に思っております。創立からの50年間で、校舎や制度、風習といったものは変化を重ねて来た事と存じます。その変化の中には、当時の生徒や先生方の思いや営みがあり、今日までの鶴嶺を築いてきたのだと感じています。

直近の10年間では、新型コロナウイルスによる学校生活への大きな制限がありました。私たちはその直後に入学し、少しずつ明るさや賑やかさが戻っていく過程を肌で感じながら過ごしてきました。それは先輩方や先生方の尽力あつ

てこそその歩みだったと思います。

40周年の生徒代表は「50周年の生徒が素晴らしい高校だと思えるようバトンを繋ぎたい」と話していました。新型コロナからの回復を始め今日までの変化はそのバトンが繋がれた証だと思います。

そしてこれからも鶴嶺高校の周年は更新され、そのたびに学校の姿も変わっていく事と存じます。在校生を初め、未来の鶴高生達がこの時代を柔軟に、正しく歩んでいける学校である事を願っております。

生徒会役員一覧

年度	会長	副会長	
2015年度（H27）	山上真由子	倉垣はるか	
2016年度（H28）	金子あゆり	石田 優凜	柴田 英祐
2017年度（H29）	柴田 英祐	石井 真尋	三浦 結
2018年度（H30）	三浦 悠介	清水 黎	清水ひかり
2019年度（R元）	清水 琉斗	松本 充生	小桶 由真
2020年度（R2）	横山 莉星	大石 渚波	三川 干紘
2021年度（R3）	平林 秀祐	高木 梨花	甲賀小太郎
2022年度（R4）	井手剛太郎	種村 怜汰	中井 陸
2023年度（R5）	刀根 暖加	小川 拓人	山崎詩衣奈
2024年度（R6）	川上 聰子	三村つくし	三浦 うた

卒業記念品一覧

年度	期	卒業記念品
2014年度（H26）	39期	ジェットヒーター
2015年度（H27）	40期	扇風機（サーチューラー）
2016年度（H28）	41期	名入れ紅白幕紐付
2017年度（H29）	42期	演台とレッドカーペット
2018年度（H30）	43期	ワンタッチテント
2019年度（R元）	44期	屋外壁掛けソーラー時計
2020年度（R2）	45期	防炎遮光カーテン
2021年度（R3）	46期	体育館スクリーン200型
2022年度（R4）	47期	ミスタークイックテント
2023年度（R5）	48期	ジェットヒーター



❖ 10年間の歩み (2015年度～2024年度)

年度	入学生数・卒業生数	あゆみ
2015年度 (H27)	【入学生】 第41期生 395名 (10学級) 【卒業生】 第37期卒業生 350名	川端 麻穂第16代校長に就任 県立高校教育力向上推進事業「国際教育」推進校、部活動強化支援事業実践校に指定される この年の海外交流校訪問参加者、ニュージーランド20名、ドイツ12名、イギリス20名 7月 フランス大学生来校 11月 オーストラリア大学生来校
2016年度 (H28)	【入学生】 第42期生 395名 (10学級) 【卒業生】 第38期卒業生 356名	部活動強化支援事業実践校に指定される この年の海外交流校訪問参加者、ドイツ12名、イギリス20名 7月 フランス大学生来校 11月 オーストラリア大学生来校
2017年度 (H29)	【入学生】 第43期生 391名 (10学級) 【卒業生】 第39期卒業生 394名	この年の海外交流校訪問参加者、ドイツ12名、イギリス12名 7月 フランス大学生来校 9月 イギリス (ウィンチカム・スクール) 来校 11月 オーストラリア大学生来校
2018年度 (H30)	【入学生】 第44期生 392名 (10学級) 【卒業生】 第40期卒業生 385名	この年の海外交流校訪問参加者、ニュージーランド20名、イギリス20名 7月 フランス大学生来校 9月 ドイツ (ザルツマン・シューレ) 来校
2019年度 (R元)	【入学生】 第45期生 385名 (10学級) 【卒業生】 第41期卒業生 383名	佐藤 教道第17代校長に就任 グローバル教育研究推進校、「生徒の発信力強化のための英語指導力向上事業」に係る研修協力校に指定される この年の海外交流校訪問参加者、ドイツ12名 ※この年3月のイギリス交流校訪問以降、令和4年度まで海外交流校訪問は中止 7月 フランス大学生来校 9月 ドイツ (ザルツマン・シューレ) 来校
2020年度 (R2)	【入学生】 第46期生 395名 (10学級) 【卒業生】 第42期卒業生 385名	9月 ドイツ (ザルツマン・シューレ) オンライン交流 12月 Tsurumine Speech Contest 開催
2021年度 (R3)	【入学生】 第47期生 388名 (10学級) 【卒業生】 第43期卒業生 383名	12月 Tsurumine Speech Contest 開催 3月 ワールドスポーツフェスティバル開催
2022年度 (R4)	【入学生】 第48期生 389名 (10学級) 【卒業生】 第44期卒業生 391名	濱川 美奈子第18代校長に就任 グローバル教育研究推進校に指定される 12月、2月 ドイツ (ザルツマン・シューレ) オンライン交流 12月 Tsurumine Speech Contest 開催 3月 ワールドスポーツフェスティバル開催
2023年度 (R5)	【入学生】 第49期生 394名 (10学級) 【卒業生】 第45期卒業生 375名	この年の海外交流校訪問参加者、ニュージーランド20名、イギリス20名 7月 フランス大学生来校 9月 ドイツ (ザルツマン・シューレ) 来校 11月、12月 Tsurumine Speech Contest 開催 3月 ワールドスポーツフェスティバル開催
2024年度 (R6)	【入学生】 第50期生 393名 (10学級) 【卒業生】 第46期卒業生	高橋 正広第19代校長に就任

